

# 法学部3年演習「国際法研究」(鶴田ゼミ)・法学部4年卒業論文 現役生の声①

## 2021年度ゼミ5期 佐藤友惟さん 研究テーマ「途上国における基礎教育の普及と法制度」

私にとっての鶴田ゼミの魅力は「話す力」を鍛えられることと、自分の研究を他学科からの視点も取り入れて進められることです。今年度は、まず、自分で問いを設定し、研究したいことについて発表しました。その後も、自分の論文を完成させるための全ての工程で、ゼミ生全員で意見を交換し合っています。ほとんど毎回自分の研究の中間報告をするため、「話す力」を鍛えることができます。人前で話す機会が多くあることで、自分の意見をまとめて話す力が少しずつ付いてきていると実感しています。また、今年度は法律学科、政治学科とグローバル法学科のゼミ生がいます。他学科のゼミ生から、それぞれの学科で培ってきた問題解決の視点を踏まえて、自分の研究についてフィードバックをもらうことができるので、知見を広げることができ、自分の関心のあることについて、楽しく研究を進めることができるゼミです。

## 2021年度ゼミ5期 相澤七海さん 研究テーマ「在留外国人の権利と少子化対策の可能性」

鶴田ゼミの他のゼミと大きく異なるポイントは、「それぞれが関心のある研究テーマを研究する」という点です。他のゼミではゼミで何を学ぶのかは明確に決められています。しかし、鶴田ゼミでは自分が学びたいことをそれぞれが設定し、ゼミ生みんなが各々の研究テーマを追究します。学ぶことも自分たちで決めなければ何も始まらない点は、とても大変ではありますが、研究テーマが違うからといって全部一人でやるわけではありません。ゼミの時間にお互いの研究テーマについて意見を出し合い、ブラッシュアップを先生を含めたみんなで行います。そのため文章を読み解く力・理解する力が成長します。受動的ではなく能動的に自分から発信していく力を身につけていくことができる、とてもおすすすめなゼミです。

## 法学部3年演習「国際法研究」(鶴田ゼミ)・法学部4年卒業論文 現役生の声②

### 2021年度ゼミ5期 楠木早紀さん 研究テーマ「創作活動における表現の自由と規制」

情報発信能力を養いたいと考えていた私は、「情報生産者になる」というフレーズに惹かれて、鶴田ゼミを志望しました。指定された文献を読み、指示を受けて研究を進めるゼミとは異なり、「自分の興味からテーマを決め論文執筆をする」という鶴田ゼミのスタイルは、受け身では何も進まない一方で、「何か」に強い関心や熱意がある方に最適な環境だと思います。のびのびと一緒に学びを深めて下さる鶴田先生をはじめ、異なる研究テーマを持つゼミメンバーからの指摘は毎回刺激があり、自分の視野の狭さを実感しながらも充実した時間を過ごしています。大学生活を通してここまで熱意を持ち自分の興味に向き合う時間は中々ありません、鶴田ゼミで広い視野と自分の興味を深める機会を掴んでみませんか？

### 2021年度ゼミ5期 亀井のいさん 研究テーマ「中国の発展による世界への影響」

鶴田ゼミは良くも悪くも自由です。自分の設定した問いに対して、答えを提示されることはありません。しかし、自身の関心のあるテーマについて、オリジナルな問いを設定し、オリジナルなアプローチで考察を進めることは、このゼミならではの非常に楽しい経験です。しかし、論文執筆において、自分の世界観だけでは読み手に響く文章は書けません。他のメンバーからの指摘やアドバイスを受けとめて、それを取り込んでいくというプロセスが、このゼミにおける最も肝心な作業であると感じます。情報を発信する側となるのは簡単ではありませんが、この経験は必ず大学時代の大きな学びになると信じています。鶴田ゼミ生として共に頑張りましょう

## 法学部3年演習「国際法研究」(鶴田ゼミ)・法学部4年卒業論文 現役生の声③

### 2020年度ゼミ4期・2021年度卒論 川島 美希さん 研究テーマ「日本の資源循環」

このゼミでは、全員に同じ課題やテーマが与えられることはほとんどありません。あくまでも自分が研究したい内容について、自分でオリジナルな問いを設定し、その問いを解決していくことで進んでいくゼミです。捕鯨、動物実験、海のプラスチックごみ、法の域外適用など、ゼミ生の関心のある分野は様々です。しかし自分の調査・報告という一方向だけで完結するのではなく、コメンテーターという自分の伴走者をはじめ、先生やゼミメンバーからのコメントがあって成り立っています。「発信する力」と「受信する力」の双方向の力を養い、ゼミ論文を完成させていきます。このハードルは高いですが、他のゼミでは味わえないやりがいを感じることができます。

### 2020年度ゼミ4期・2021年度卒論 鎌田千景さん

私達のゼミは、それぞれが異なる分野でのテーマ設定をして研究していたため、自分の関心以外の知識も得ることができました。鶴田先生もゼミ生の自主性を尊重し温かく見守り、行き詰まった際にはヒントを与えてくださるので、自分のペースでしっかりとテーマと向き合うことができます。ゼミ論文を上手に仕上げることも勿論大事ですが、世の中の様々な事象に目を向け気付きを得るというプロセスそのものを経験するだけでも自分の成長に繋がるとゼミを通して実感しました。情報を発信する側になるというのは決して容易なことではありませんが、充実した日々を送れること間違いなしです。是非皆さんも挑戦してみてください。

## 法学部3年演習「国際法研究」(鶴田ゼミ)・法学部4年卒業論文 現役生の声④

**2020年度ゼミ4期・2021年度卒論 田中可怜さん 研究テーマは森林安全保障**

鶴田ゼミはチャレンジをあたたく迎えてくれる学びの場だと思います。私自身、勉強や学問をするなかで様々な難しさに直面し、創作活動が思うように進まない時期もありました。しかし、先生や仲間との対話に身を投じてみたからこそ、そこから広がりを得て確実に成長することができたと感じます。そのような経験がとても楽しく、もっと挑戦してみたいと思い、私は4年生になった今でもゼミに参加させていただいています。また、先生のご指導のもと大学院進学にもチャレンジしているところです。挑戦の中でも考える場面が多々ありますが、鶴田ゼミでの経験を実際に当てはめて過ごす毎日はとても充実しています。ゼミで得たものが、私の中で確実に大きな財産となって活きていることを感じる毎日です。鶴田ゼミは先生や仲間のあたたくさ、またそこから得る学びがあるからこそ、挑んでみることを、そしてさらなる広がりを自分の手をつかんでみることを学生のうちに経験できる、豊かな学問の場であると思います。

# 法学部3年演習「国際法研究」(鶴田ゼミ)・法学部4年卒業論文 卒業生の声①

## 2017年度ゼミ1期 齋藤 優輔さん(米国ワシントン大学シアトル校国際関係学部在学中)

鶴田ゼミの大きな特徴として、読解力・文章力・論理的思考力が身につく、また、国際的な視点に立ち、世界的な問題に対する理解を深めることができるという2点が挙げられると思います。まず、ゼミ開始当初は、自分の読解力や文章力をしっかりと鍛えることから始まります。課題図書で指定された範囲を読み、自分の言葉で簡潔にまとめるといったことを反復して行いました。大量の文献を読み込み、それを自分の言葉にするというのはとても大変でしたが、鶴田先生の丁寧な指導と添削のおかげで、文章を読み、書く力がとても鍛えられたと思います。また、その後は国際的な課題に関する疑問を自ら設定し、それについての論文を書いています。国内に限らず海外の書物なども引用するため、グローバルな視点で自分のテーマを研究し、国際問題に関して理解を深めていくこととなります。グローバルな課題に関心があり、国際的な視点に立って勉強をしてみたいという人にはとてもおすすめのゼミです。

鶴田追記:齋藤さんは本学の2017年度第40回学生懸賞論文(テーマは難民問題)で奨励賞を受賞しました。

## 2018年度ゼミ2期・2019年度卒論 齋藤 梓さん(出版社勤務)

国際法の観点から、自分の社会問題への関心を研究へと昇華できるゼミです。先生は広い準備で、各学生の多様な興味・関心と国際法を繋げてくださり、研究テーマの問いを立てることすら苦戦していた私も、主体的に自分のペースで研究に向き合い続けられました。一方、ゼミ生同士で毎週お互いの論文についてコメントし合う必要があり、社会問題への視野は広く持たなければなりません。その点で、調べて得ただけの情報を伝えることと、情報を生産することの違いを身を持って持って学んでいきます。社会人になった今の視野や意見の表現力はゼミと卒論で養った私の財産です。ぜひゼミ論文は先生のもとで卒業論文に仕上げることをお勧めします。

鶴田追記:齋藤さんは北極海航路をテーマにした卒論で2019年度卒業論文優秀賞を受賞しました。

# 法学部3年演習「国際法研究」(鶴田ゼミ)・法学部4年卒業論文 卒業生の声②

## 2019年度ゼミ3期・2020年度卒論 三村 夏鈴さん

### 研究テーマ「芸術によって政治の意識を高められるか」

3年次のゼミでは問いを立て、問いに対する自分なりの答えを出す練習をし、短い論文を書きます。4年次には、前年の反省を活かし、大学生活の集大成として、卒業論文を完成させました。メンバーがお互いに論文を読み、改善点を出し合い、論文の流れを決めていく時間を中心に進められます。ゼミの特徴は、そのようにメンバー同士が切磋琢磨して勉強できる点にあると思います。これをしなければいけないということではなく、自分がいま気になっていることについて考え、テーマに落とし込み、研究することができると思います。

## 2019年度ゼミ3期・2020年度卒論 笹井 修太郎さん

### 研究テーマ「希少野生動物の組織的な密輸入の現状と対策」

鶴田ゼミでは、レポートではなく、論文を執筆します。自らの関心に即した問いを立て、調査し、まとめる。問いも結論も人それぞれ。自分だけが産み出せるオリジナルな情報、それが論文です。このゼミでは、ゼミ生がお互いにコメントし合いながら、論文の質を高めていきます。そして、論文にとって何より重要なのは「伝わる」こと。「伝わらない」報告には、「難しい」とコメントが付き、対話になりません。そのため、ゼミでは研究成果を発信する力も鍛えられます。一見ハードですが、研究したくて集まった仲間、先生のお人柄も手伝って、いい雰囲気です。私も、問いを立てたり、「伝わる」論文の執筆に苦心しましたが、最優秀卒業論文賞をいただいたことで、2年間の研究の過程が力になっていることを強く実感しました。研究したいことがある方は鶴田ゼミであなただけの問いに挑戦してください。

鶴田追記: 笹井君はワシントン条約をテーマにした卒論で2020年度卒業論文最優秀賞を受賞しました。